

## 第5章 武家社会の成長 3. 室町文化 a. 室町文化の特徴

- ①[1 **武家**]が伝統的な[2 **公家**]文化を吸収・融合。  
 強く[3 **禅宗**]の影響をうける。  
 経済の発展→[4 **惣村**]を基盤とする農村や都市民衆とも広く交流→幅広い基盤をもつ  
 日明貿易→[5 **大陸**]文化との融合。中央の文化と[6 **地方**]の文化の交流(「小京都」の形成)

②日本の伝統文化=[7 **能・狂言・連歌・茶の湯・生け花・書院造**]などが形成される。

③前期…[8 **南北朝**]文化、中期…[9 **北山**]文化、後期…[10 **東山**]文化

室町時代には、まず動乱期を背景とした[11 **南北朝**]文化が生まれ、ついで足利義満の時代に[12 **北山**]文化が、足利義政の時代に[13 **東山**]文化が形成された。  
 この時代の文化は、幕府が京都におかれたことや東アジアとの活発な交流にともなって、[14 **武家**]文化と公家文化、大陸文化と[15 **伝統**]文化の融合が進み、また経済発展を背景に成長しつつあった[16 **惣村**]や[17 **都市**]の民衆とも交流して、広い基盤を持つ文化が生み出された。  
 中央文化と地方文化の融合も進み、それが洗練され、調和していくなから、しだいに日本固有の文化ともいふべきものが形成されていった。今日、日本の伝統文化の代表とされる能・狂言・茶の湯・生花などの多くが、その基盤を確立していった。

### b, 南北朝の文化

①背景…動乱の文化=既存の価値観を疑う、[18 **歴史への関心**]、[19 **公家**]文化の最後の輝き  
 [20 **ばさら**]の流行…身分にとらわれず[21 **華美な風俗**]で[22 **伝統的権威**]を嘲笑  
**佐々木道誉ら**

②歴史文学…[23 **増鏡**]「大鏡」につづく、公家側より描く  
 歴史論…[24 **神皇正統記**](北畠親房)=南朝の正統性を朱子学や[25 **大義名分**]で理論化  
 軍記物語…[26 **太平記**](南朝に好意的)、[27 **梅松論**](北朝側)  
**朱子学・大義名分論**

③[28 **茶寄合**]・[29 **連歌**]の流行

連歌…和歌を上句と下句に分け、一座の人びとがつぎつぎに句を継いでいくもの。『菟玖波集』が勅撰集と同格とみなされてからは、和歌と対等の地位をきずく。

④有職故実の研究…職原抄(北畠親房)・[30 **建武年中行事**](後醍醐天皇)

### c, 北山文化

①[31 **足利義満**]の時代が中心…[32 **北山殿**](現:鹿苑寺)が代表的施設  
 特徴…[33 **武家**]と[34 **公家**]の文化を折衷  
 →例 鹿苑寺金閣…[35 **寝殿造**](貴族文化)+[36 **禅宗様**](武家文化)が融合

②禅宗文化…臨済宗の発達=[37 **夢窓疎石**]ら將軍の帰依をうける→[38 **天竜寺**]を開く

### 春屋妙葩→相国寺造立(義満の保護)

[39 **五山十刹**]の制を設ける=[40 **中国文化**]受け入れの中心  
 →[41 **五山文学**](宋学の研究や[42 **漢詩文**])、五山版(禅の經典や漢詩文集の[43 **印刷**])  
 禅僧の活躍→幕府の[44 **政治・外交顧問**]としても活躍、金融業者(高利貸!としての側面も)

鎌倉時代、武家社会の上層に広まった臨済宗は、[45 **夢窓疎石**]が將軍足利尊氏のあつい帰依を受けて以来、[46 **幕府の保護**]のもとでさかえた。義満の時代に[47 **五山十刹**]の制もほぼ完成した。五山の禅僧には渡来僧や留学僧など[48 **中国**]との結びつきが強く、禅だけでなく[49 **水墨画**]や建築・庭園様式などを広く伝えた。彼らのあいだでは、儒教([50 **宋学**])の研究や[51 **漢詩文**]の創作もさかんであり[52 **五山文学**]とよばれた。また[53 **五山版**]とよばれる禅の經典・漢詩文集などを出版を行うなど、中国文化の普及にも大きな役割を果たした。

③能の成立…古代の神事芸能[54 **猿楽**][55 **田楽**]を基礎に形成

↓

能の専門集団の成立、とくに大和猿楽四座(観世・宝生・金春・金剛)←興福寺を本所とする  
 観世座の[56 **観阿弥**][57 **世阿弥**]父子が洗練された美をめざす[58 **猿楽能**]を完成  
 →理論書[59 **風姿花伝**]を著わす

[60 **狂言**]=滑稽なしぐさで庶民の笑いを誘う

### d, 東山文化

①[61 **足利義政**]將軍の時代が中心=[62 **東山山荘**](慈照寺)

②特徴

[63 **銀閣**]の建築など→貴族文化と武家文化の[64 **融合**]  
 禅文化の影響…[65 **簡素と風雅、枯淡・幽玄**]を基調とする

③新しい住宅様式の成立=[66 **書院**]造(慈照寺[67 **東求堂**])→近代和風建築の出発点

庭園=[68 **枯山水**]…[69 **岩石と砂によって自然を象徴的に作り出す**]

([70 **竜安寺**]・大徳寺大仙院など)

座敷の装飾…[71 **水墨**]画([72 **雪舟**]が大成)←明兆・如拙・周文(北山文化)

[73 **大和絵**]=[74 **土佐**]派(土佐光信)

[75 **狩野**]派(狩野正信・光信)=水墨画と大和絵の統一

④[76 **茶**]道の基礎成立→村田珠光[77 **侘茶**]創出

[78 **生花**]=仏前に備える→花そのものを鑑賞(立花様式の完成)、[79 **池坊専慶**]ら

⑤公家の文化=有職故実や古典の研究([80 **一条兼良**]ら)

吉田兼俱…[81 **唯一神道**]完成(反本地垂迹説にたつ)